

〈自分たちでつくるみんなの学校 ～みんなが笑顔になる学校を目指して～〉



成美っ子

学校だより 令和6年度No.7

「自ら学びに向かう」ということ

第3学年担任 書川 ともか

私は、大学4年生のとき、友人と一緒に「ふるさと学習研究会」という団体を発足し、活動していました。きっかけは、私と同じ射水市出身の友人が「射水の町づくりに関する活動をしたいんだけど、一緒にしない？」と声をかけてくれたことでした。そして、「射水市の小学生に、ふるさとについて楽しく学んでほしい」という思いから、ふるさと学習に活用できる「いみずのひみつ」という冊子を制作しました。初めは、仲のよい友人の誘いだからという理由で始めたことでしたが、気付けば一年間、夢中になって取り組んでいました。

まずは、冊子を制作するために、様々な計画を立てました。載せたい内容や必要な調査、子供たちの興味・関心を引き出すための工夫等について、何度も話し合いました。思いや考えはたくさんありましたが、実際に冊子を制作した経験がなかったため、様々な文献を調べ、顧問の先生の助言を受けながら、準備を進めていきました。

次に、話し合ったことを基に、調査を始めました。古くからある名所に行ったり、地元の食材を使った名物を食べたりするなど、様々な場所に足を運びました。幼い頃から変わらない景色に懐かしさを感じる一方で、時代と共に大きく変化した場所の多さに驚きました。中でも、印象に残っているのは、インタビュー調査です。博物館や市役所、道の駅等、射水市にまつわる8つの施設や団体を対象に行き、理念や取組、SDGs と関連した活動等について教えていただきました。「市民に幸せになってほしい」、「自慢できるふるさとにしたい」という言葉から、活動に対しての熱い思いが伝わり、心を動かされました。また、射水市の未来を担う子供たちへのメッセージも、聞かせていただきました。どの方も、伝えたい思いをたくさんお持ちで、まるで、子供に語りかけるように、温かな口調で話してくださる姿が印象的でした。

そして、全ての調査、編集を終え、冊子が完成しました。たくさんの人の思いを噛みしめながら、友人と一緒に何度も読み、そのたびにわくわくしました。この冊子そのものはもちろん、学びや出会い、制作に費やした時間等、全てが今の私の糧であり、宝物になっています。



【制作した「いみずのひみつ」】

教員になった今、全力で学びに向かう子供たちの姿に日々接することで、学生時代のこの経験を振り返りました。私は、生まれも育ちも射水市です。しかし、「いみずのひみつ」を制作した1年間は初めて見るもの、聞くことばかりで、毎日がとても新鮮でした。それと同時に、「自ら学びに向かう」ということの大切さを実感しました。きっかけを与えてくれたのは友人でしたが、自分の中の知りたいという気持ちが原動力になっていたからこそ、あれほどまでに楽しく学ぶことができたのだと思います。これから先も、学びたいという気持ちを大切に、新たな発見や出会いを重ねていきたいと思っています。そして、子供たちと一緒に楽しく学び、成長していきたいです。